

小学館  
からの  
お知らせ

1/4

# 速報

## 第63回

# 『小学館児童出版文化賞』 が決定いたしました。

受賞作

## 『光のうつしえ 広島 ヒロシマ 広島』

朽木祥(くつき・しょう) / 作 講談社 / 刊

## 『ぼくのふとんは うみでできている』

ミロコマチコ(みろこまちこ) / 作 あかね書房 / 刊

小学館は本日、第63回『小学館児童出版文化賞』の最終選考会を行い、  
受賞作を『光のうつしえ 広島 ヒロシマ 広島』(朽木祥 / 作 講談社 / 刊)

『ぼくのふとんは うみでできている』(ミロコマチコ / 作 あかね書房 / 刊)  
の2作品に決定いたしました。

なお、贈賞式は、11月6日(木)午後5時30分より、如水会館(千代田区一ツ橋)にて挙行の予定です。  
正賞としてブロンズ像「わかば」(笹戸千津子作)、副賞として賞金100万円が授与されます。

## 第63回 小学館児童出版文化賞

**受賞作**

# 『光のうつしえ 広島 ヒロシマ 広島』

朽木祥／作 講談社／刊

### 【概要】

夏が来る度に流される灯籠。母の手から離れる灯籠のひとつには、あるべきはずの名前が書かれていなかった…。その謎をきっかけに聞き出された、原爆で失われた数々の命の話は、やがて文化祭での作品発表という形で表現されていく。「大切な人たちの小さな物語を丁寧に描いていくことこそが、大きな事件を描き出す最も確かな道である。」戦争や原爆の恐ろしさを伝えていくことの大切さを描いた、ある少女とその家族、友人、先生達の、ひと夏の物語。

### 【プロフィール】

朽木祥（くつき・しょう）

1957年、広島県広島市生まれ。被爆二世。上智大学大学院博士前期課程修了。デビュー作『かはたれ』（福音館書店）で第35回児童文芸新人賞、第39回日本児童文学者協会新人賞ほか受賞。『彼岸花はきつねのかんざし』（学習研究社）で第33回日本児童文芸家協会賞受賞。『風の靴』（講談社）で第57回産経児童出版文化賞大賞受賞。『オン・ザ・ライン』（小学館）は第58回青少年読書感想文全国コンクール課題図書に。その他の作品に『たそかれ』（福音館書店）、『引き出しの中の家』（ポプラ社）、『八月の光』（偕成社）などがある。本書『光のうつしえ 広島 ヒロシマ 広島』は、第9回福田清人賞を受賞。神奈川県鎌倉市在住。

## 第63回 小学館児童出版文化賞

受賞作

# 『ぼくのふとんは うみでできている』

ミロコマチコ／作 あかね書房／刊

### 【概要】

「ぼくのふとんはうみでできている」波がザーンと音をたてる布団に、今日は猫のシロと寝る。目覚めるとシロに子猫が生まれていた。「ぼくのふとんはねこでできている」猫の布団をこねこねしたら、なんだかふかふかしていい匂い。目覚めると朝ご飯はふかふかのパンだった。「ぼくのふとんはパンでできている」誰かが布団のパンを食べている。わあ!ぞうさんですか。ぞうさんはパンの布団を全部食べちゃった。目覚めたら、今度はどうなっているんだろう……。

### 【プロフィール】

ミロコマチコ（みろこまちこ）

1981年、大阪府枚方市生まれ。画家・絵本作家。2004年から画家として活動を開始。個展やグループ展など、作品展示を全国各地で精力的に行い、伸びやかな作風で、動物や植物を生き生きと描き、注目を集める。おもに子どもを対象としたワークショップにも力を注いでいる。2012年、『オオカミがとぶひ』（イースト・プレス）で絵本デビュー。同作で第18回日本絵本賞大賞を受賞。『てつぞうはね』（ブロンズ新社）で第45回講談社出版文化賞絵本賞を受賞。画文集に『ホロホロチョウのよる』（港の人）、装画と挿絵の仕事に『サバンナの動物親子に学ぶ』（羽仁進著／講談社）、『きみの町で』（重松清著／朝日出版社）、『いっしょにアムベ!』（高森美由紀／フレーベル館）、『ヒワとゾウガメ』（安東みきえ／佼成出版社）、『うそ』（中川ひろたか／金の星社）などがある。美術同人誌『四月と十月』の同人。

## 【第63回小学館児童出版文化賞 選考経過】

今回は、2013年4月から2014年3月までに発表された、絵本（創作絵本・写真絵本など）、童話・文学（フィクション・詩・シナリオなど）、その他（ノンフィクション・科学絵本・図鑑・事典など）の出版物（翻訳・キャラクター・コミックスなどは除く）で、幼年ならびに少年少女に推薦したい優れた作品を対象として、事務局内に予選委員会を設け、選考にあたってまいりました。

選考に先立って、審査委員・作家・画家・写真家・各出版社・新聞社・児童文化団体・図書館・書店児童図書担当者・読者からの推薦を募りました。それに事務局が収集した作品を加えて予備選考を行った結果、以下の作品が今年度の候補作となりました。

これらの作品を、審査委員の荒井良二、伊藤秀男、今森光彦、角田光代、ねじめ正一（50音順）の5名の先生方にご審査いただき、9月11日の最終選考会におきまして、受賞作を決定いたしました。

## 第63回 小学館児童出版文化賞 候補作品（50音順）

ジャンル	作品名	作者名	発行所	発行年月
絵本	いくらなんでもいくらくん	シゲタサヤカ	イースト・プレス	2013年11月
読み物	かあちゃん取扱説明書	いとうみく	童心社	2013年5月
読み物	紙コップのオリオン	市川朔久子	講談社	2013年8月
読み物	ともだちは、サティー!	大塚篤子	小峰書店	2013年6月
読み物	ネバーギブアップ!	くすのきしげのり	小学館	2013年7月
絵本	はこぶ	鎌田歩	教育画劇	2014年1月
読み物	光のうつしえ 広島 ヒロシマ 広島	朽木祥	講談社	2013年10月
絵本	ぼくのふとんは うみでできている	ミロコマチコ	あかね書房	2013年7月
絵本	僕は46億歳。	豊田充穂	学研教育出版	2013年12月
読み物	星空ロック	那須田淳	あすなろ書房	2013年12月
絵本	りんごかもしれない	ヨシタケシンスケ	ブロンズ新社	2013年4月

## 【小学館児童出版文化賞について】

「小学館児童出版文化賞」は、児童出版文化の向上に貢献すると認められる作品及び作家を毎年選定し顕彰するものです。

この賞は、1952年（昭和27年）に小学館の創業30周年を記念して、「小学館文学賞」「小学館絵画賞」として創設され、1996年（平成8年）から発展的に統合し改称いたしました。

今後とも、是非この賞の趣旨をご理解いただき、少しでも多くの方にこの賞の存在意義について知っていただければ幸いです。そして、21世紀を担っていく子どもたちにとって1冊でも多くの優れた作品が出版されるために、この賞が少しでも寄与することができれば、と考えております。